

特殊神事（和歌山県指定無形民俗文化財）

○例大祭 神馬渡御式 十月十五日
速玉大神が神馬で御旅所へ渡御され、「杉のお仮宮」で古儀な神事が斎行される。

○御船祭 十月十六日

結大神が神輿、神幸船で熊野川を遡りながら、お伴の早船九隻が御船島を廻って競漕を行う。紀南随一の秋祭りとして多くの参観者で賑う。

○扇立祭 七月十四日 神前に立てられた彩絵槍扇に神が降臨され、災難を祓い幸福を招く神事。

○お灯祭 二月六日 神倉山で斎行し、白装束に身を固めた上り子が駆け下る勇壮な火の神事。

授与品

○熊野牛王符 熊野権現の神使・八咫鳥で神名を表した有名な護符。古来、起請文に用いられ、盗難除・厄除・病氣平癒等の御神徳がある。

○なぎ人形 御神木「柳」の実で奉製した当大社独特の柱掛け神札。家内安全・縁結びの信仰がある。

○なぎ小苗 実生の苗で、この木を植えると、御神徳のもと家内安全・繁栄するという。信仰篤き者には、このなぎの葉に熊野権現のお告げが表われるという。

熊野権現講にぜひご入会下さい

熊野速玉大社の宏大無辺の御神徳を敬仰し、神域・神事の護持を目的とした崇敬者の集いです。講員には次の特典があります。
○毎朝、講員の安泰をご祈願
○各祭典のご案内
○講員特別神符と暦の送付
○ご参拝に際して、昇殿参拝の奉仕
○社報「熊野権現」の送付

熊野神宝館

開館時間・午前九時から午後四時頃まで
拝観料・大人五〇〇円、高校生以下無料

交通アクセス

東京方面からは、新幹線にて名古屋駅で乗り換え、大阪方面からも同様にJR紀勢本線にて新宮駅下車、徒歩十五分。

◎正式参拝と熊野絵解を御奉仕しています。ご希望の方は、どうぞお申し込みください。

日本第一大靈驗所 熊野速玉大社
全国熊野神社總本宮

和歌山県新宮市新宮一番地
TEL (0735) 2212563 (代)
TEL (0735) 2311560
FAX (0735) 2311560
〒647-0081



全国熊野神社総本宮

熊野速玉大社

検校法親王

なぎの葉にみがける露のはや玉を
むすぶの宮やひかりそふらむ

はやたま 速玉とは、宏大無辺な熊野権現の

かがや み た ま た た み な 映え輝く御神霊を讃えた御名なり

だれ 誰とても 欽仰の心あらば

めぐみ などか神徳にあずからん

山は重畳として連なり、果ては海に達するところ
海は果てしなく広がり、南海より波うち寄せるところ
厳しくも、美しく豊かな自然の中に生まれた神々は、早
くから儒教仏教などと融合し、熊野信仰という特色ある
精神文化を築いてきた。
熱烈な熊野信仰は、蟻の熊野詣での諺を生み、たとえい
かなる立場であろうと、速玉大神を仰ぎ慕う心があれば
男女の別なくお救いくださり、必ずやその心願は成就す
ると信奉されている。
まさしく、映え輝く大神徳は永遠に宏大無辺である。

平成十六年（二〇〇四）七月七日 世界文化遺産登録

熊野速玉大社は、悠久の彼方、熊野信仰の原点、神倉山の靈石ゴトビキ岩（天ノ磐盾）を、ご神体とする自然崇拜を源として、この天ノ磐盾に降臨せられた熊野三神（熊野速玉大神、熊野夫須美大神、家津美御子大神）を、景行天皇五十八年の御代（西暦一二年）初めて瑞々しい神殿を建ててお迎えしたことに創始いたします。我々の祖先は、美し国熊野に坐しますこの真新しい新宮に大自然の恵みを献じて神々を齋き祀り、感謝と畏敬の心を込めて祈りを捧げながら、最も神社神道の特色ともいふべき清め祓いを実践してまいりました。

このように、原始信仰から神社神道へと信仰の形を整えていった厳儀を、未来永劫にわたり顕彰し続ける精神をもって「新宮」と号するゆえんであります。この尊称は、まさに熊野速玉大社が、天地を教典とする自然信仰の中から誕生した悠久の歴史を有すことの証といえ、平成十六年七月には世界文化遺産に登録されました。

中世、熊野御幸は百四十一度を仰ぎ、第四十六代孝謙天皇より「日本第一大靈驗所」の勅額を賜り、また千二百点を数える国宝古神宝類が奉納され、全国に祀る熊野神社の総本宮として厚い信仰を集めております。また、境内には、熊野信仰の象徴たる「柳の大樹」が繁り、熊野神宝館や熊野詣を物語る「熊野御幸碑」などがあります。

熊野権現信仰（三山三世信仰）

熊野権現信仰は奈良朝に起り、神仏習合の流布にともない、熊野速玉大神は薬師如来として、熊野夫須美大神は千手観音に、家津美御子大神は阿弥陀如来というように、神々はそのままで俗世に御姿を現わすことは出来ないのです。仮に仏にお姿を変えて現れる（権現）と説かれました。熊野三山は、衆生の苦しみや病いを癒し、過去世の業を救い現世安穩の御加護を垂れ、来世（浄土）に導いて下さる御神仏のまします常世として位置づけられ、古来から「滅罪と人生の廻り」を求めて多くの信仰者が訪れています。

古神宝

平安初期の御神像をはじめ、室町時代に調進された古神宝類は、天皇・上皇・將軍家・大名家から奉納されたもので、実に一千二百余点に上る膨大な質量が保存されています。これらの精華は今日すべて、国宝・重要文化財に指定され、彩絵・絵扇・詩絵手箱・お装束など稀有の御物として、熊野信仰を語る上で欠くことができません。人々の当大社への畏敬の念と神迎への喜びの心が、伝統ある神事となり、また奉納されたこれらの古神宝となって、熊野神宝館をはじめ全国各博物館に保存展示されています。

熊野神社の流布と絵解き

熊野三山を源とする熊野神社は、全国に及び三千数百社を数えます。なかでも御祭神が、当大社主神である速玉大神・夫須美大神を祀る御分社が全体の七割近くを占め、さらに「新宮」「速玉」と名の付く神社が数多く見受けられます。このように熊野信仰が全国に広く浸透していった背景には、熊野修験・熊野比丘尼の存在があります。比丘尼達は、熊野観心十界曼荼羅や柳の小枝、熊野牛王符を携えて、津々浦々で御神徳を説いて語り、熊野信仰は全国に伝えられていきました。当大社では「観心十界曼荼羅」の絵解きを行っておりますので、どうぞお申し出下さい。

神鳥「八咫鳥」と「熊野牛王宝印」

熊野大神のお使いである三本足の「八咫鳥」は、神武天皇が熊野山中で道に迷われた時、大和の国に入る道先案内をつとめたといわれています。この「八咫鳥」を絵文字化した神札「熊野牛王符」は、千年札・おからすさまとも称され、あらゆる災いを防ぎ、病いを平癒する護符と崇められるとともに、誓約書や起請文にも用いられ、熊野詣の人々はお詣りの際、必ずこのお札を受けることを慣習としています。

この熊野牛王符を題材にした古典落語「三枚起請」では、遊女が牛王符の裏に書いた起請文を複数の旦那に渡し、それを知った旦那達とのやりとりが語られていて、千年の昔から伝わる熊野牛王宝印の靈験が人々の間に広く浸透していた様子が窺われます。

